

## 2) 亀井堂

御本尊：馬頭観音像、地蔵菩薩像

亀井堂は空襲で焼失した後、  
1955年（昭和30年）に再建されました。

中心伽藍の中にも龍が棲むという”龍の井戸”伝説がありますが、中央伽藍の東側の”亀井堂”にも伝説があります。亀井堂は回向を済ませた経木を流すところで、亀の形をした水盤があってその口から水が流れています。この水が”亀井の水”という霊水です。

江戸時代、狂言師の中川喜雲が書いた「京童跡追い」という本には「亀井堂の水は天竺から龍の棲む竜宮城を経て銀の樋で運ばれているから決してかかれることがない」と記され、また伝承でも「金堂の地下深くに青龍の棲む深い池があってそこから流れている」と伝えています。これも龍の井戸と同様、四天王寺は荒陵池を埋めて建てたという伝承から発生したものでしょうが、昔の人は“亀井の霊水”の彼方に極楽があり、回向を済ませた経木を流せば極楽往生が叶うと考えていたようです。いったん底に沈んだ経木が浮かんでくるのを見て「これでご先祖の霊が浮かべられた」と安心されたそうです。

内部は西側を「亀井の間」、東側を「影向（ようごう）の間」と呼び、左右に馬頭観音像と地蔵菩薩像を祀っています。

また、堂内中央には、昔、聖徳太子が井戸に姿を映し、楊枝で自画像を描いたという伝承にちなんで、楊枝の御影が安置されています。

影向とは：

神や仏が現れること。「ようごう」または「えいこう」と読みます

## 3) 亀井不動尊

御本尊：水掛け不動尊像

亀井不動尊は、593年（推古元年）の創建と伝わり、空襲による焼失後、1933年（昭和30年）に再建されました。

本尊・水掛け不動尊像は全身を苔に覆われた小さな石像で、左右には子育地蔵尊像、延命地蔵尊像が祀られています。

